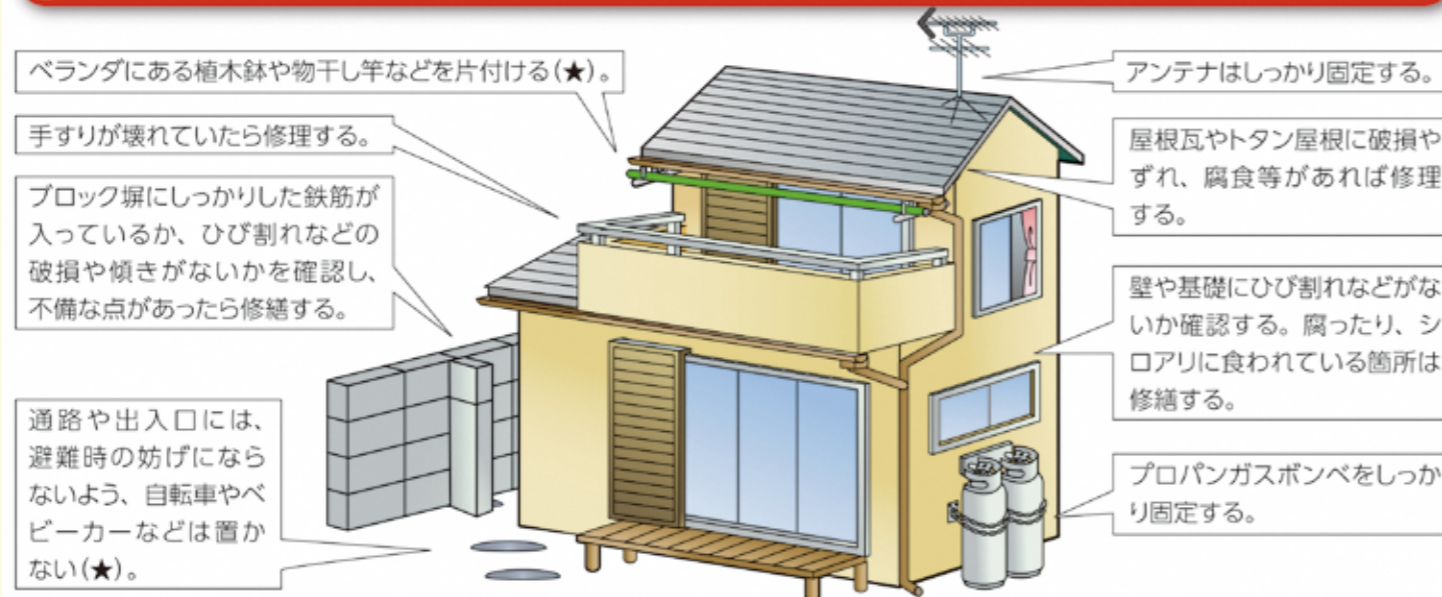


# 地震に備える

大きな揺れから身の安全を守るため、また、家屋や家具の被害を最小限に抑えるために、日頃から自宅の安全対策を行いましょう。

## ● 家屋の備え

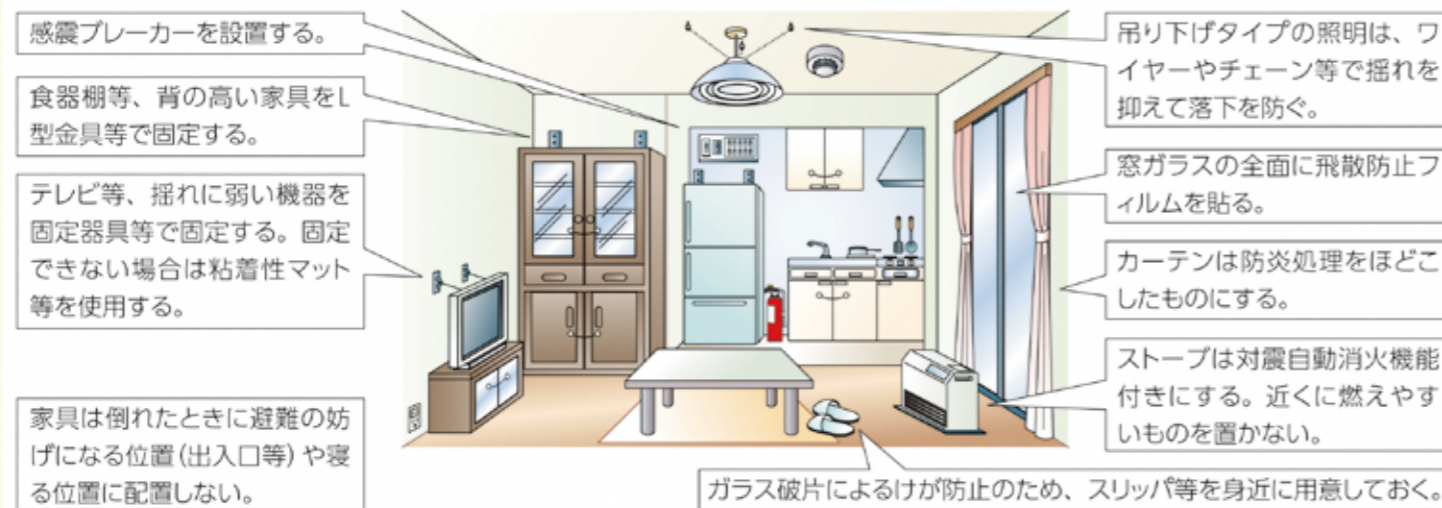


★の項目は、集合住宅にお住まいの方が個人で出来る対策です。

## ● 屋内の備え

過去の震災では、家が無事でも家具の転倒等により負傷したり、転倒した家具やガラスの破片等を片付けられず、避難所で生活を余儀なくされるケースが多くあります。安全な部屋作りを今すぐ実践しましょう。

- 大きな家具は人の出入りの少ない部屋にまとめて置く。
- 重い物は下の段に収納する。
- 玄関や廊下には物を置かない(避難時の妨げになる)。
- 高齢者や子どもの部屋、寝室に、倒れやすい家具は置かない。



### 木造住宅の無料簡易耐震診断

市では、対象となる木造住宅への無料簡易耐震診断を実施しています。

#### 【診断対象建築物】

昭和56年5月31日以前に建築された1階建て、2階建ての木造住宅

#### 【必要書類】

建築確認通知書または各階平面図

#### 【問合せ】

都市計画課 建築指導担当  
電話 048-982-9885 (直通)

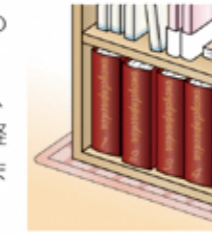
## ● 家具類の安全対策

参考：総務省消防庁ホームページ「地震による家具の転倒を防ぐには」 <https://www.fdma.go.jp/publication/database/kagu/>

大地震への備えとして、家具類の転倒防止対策を行いましょう。賃貸住宅では、壁への穴あけ等が難しい面があるので、つっぱり棒や粘着性マット等を使用しましょう。

### ● すぐにできる転倒防止対策

- 家具の下に滑り止めマットを敷きましょう。
- 食器棚や本棚等では、重いものを下に、軽いものを上に収納しましょう。

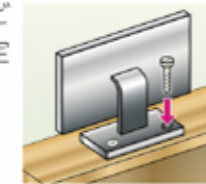


- 家具と天井の隙間を、弱粘着性のマットを挟んだダンボール箱などで詰めましょう。天井と段ボール箱の隙間は2cm以内にしましょう。

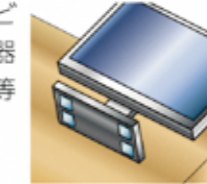


### ● テレビの固定方法

- テレビ本体とテレビ台をポルト等で固定しましょう。



- テレビ本体とテレビ台をストラップ式器具や粘着性マット等で固定しましょう。

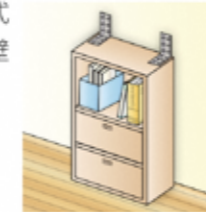


- テレビ本体と壁や柱をロープとヒートン(金具)などを利用して連結しましょう。

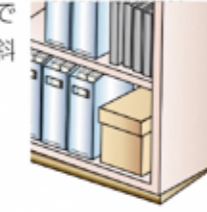


### ● タンス等の大型家具

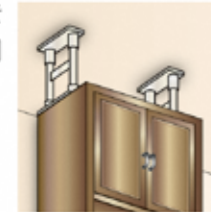
- L型金具やベルト式器具等で家具と壁を固定しましょう。



- ストッパー式器具で家具を壁側に傾斜させましょう。



- 家具と天井の間をつっぱり棒などで固定しましょう。



### ● 家具類の固定方法

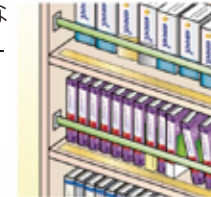
- 上下にわかれていた家具は金具で連結しましょう。



- 扉が開かないように留め具をつけましょう。



- 本などが飛び出さないようにストッパーをつけましょう。



## ● 通電火災を防ぐ

感震ブレーカーは、強い揺れを検知すると自動的にブレーカーを落として電気を止める機器です。破損した電化製品の電気配線が通電時に発火して発生する「通電火災」を防ぐことができます。

感震ブレーカーには、右記のタイプのほかに、コンセントで遮断するタイプもあります。

#### 分電盤タイプ



#### 簡易タイプ



### 過去から学ぶ <阪神・淡路大震災の場合>

阪神・淡路大震災では、けがの原因の7割が家具等の転倒落下とガラスによるものでした。家具類の固定とガラスの飛散防止は、減災効果の高い取り組みと言えます。

#### 阪神・淡路大震災でけがをした人の原因



日本建築学会「阪神淡路大震災 住宅内部被害調査報告書」より